

全国コミュニティ・スクール連絡協議会会報 No.26

〈令和7年度 総会・熟議の報告及び研究大会 in 仙台の速報〉

発行日 令和7年12月9日 編集・発行 全国コミュニティ・スクール連絡協議会事務局

全国コミュニティ・スクール連絡協議会会长挨拶

「総会・研究大会を終えて。」

京都市教育長 稲田 新吾

先日11月7日に全国コミュニティ・スクール連絡協議会「総会・熟議」を開催し、翌8日に開催した「研究大会 in 仙台」では、会場参加とWEB参加を合わせて約870名の方にご参加いただきました。全国各地より多くの皆様にお越し頂き、心より感謝申し上げます。

今回の研究大会は「多様なつながりの中で共に学び支え合う社会の実現に向かって～自然災害からの復興・創生を通して考えるコミュニティ・スクールと地域学校協働活動の可能性～」というテーマで開催しました。

直近の文部科学省調査によると、全国のコミュニティ・スクール設置率は64.9%と過去最高となり、今後は量的拡大から質的充実への転換が求められる中、本大会では、震災からの復興・創生を通して、学校を核とした地域づくり（スクール・コミュニティ）の推進に向けた方策など、今後の在り方を展望する上で、非常に重要な示唆を得ることができました。

次年度の総会・研究大会は、京都市で開催されます。京都市では、「地域の子どもは、地域で育てる」理念の下、コミュニティ・スクールが法制化される前から設置を進めており、コミュニティ・スクールを核に、地域の力で子どもの学びが豊かになり、地域も活性化するという「子どもの健全育成」と「地域の活性化」の好循環を創出する仕組みの構築を目指しています。

仙台大会で学ばせていただいたことを活かし、京都大会では、20年以上に渡る本市の実践を発信するとともに、全国の先進事例から学ばせていただく機会となるよう万全の準備を期したいと思います。

結びに、本大会に格段のご尽力を賜りました仙台市教育委員会の皆様や文部科学省の皆様をはじめ、全ての関係者に感謝申し上げるとともに、ご参加された皆様の益々のご健勝とご活躍を祈念いたします。



全国コミュニティ・スクール連絡協議会『総会・熟議』

— 総会では、教育長同士による「熟議」を通して、ネットワーク構築と連携強化を図っています！ —

◎会務報告及び役員選任・紹介

文部科学省総合教育政策局地域学習推進課長 高田行紀様をはじめご来賓の皆様、評議員の皆様など計32名にご参加いただきました。新たに本会にご入会いただいた自治体のうち、現地に参加されていた北海道恵庭市、青森県青森市、埼玉県さいたま市の3自治体よりご挨拶をいただきました。その後、新たな支部長の選任と会長による会務報告、役員紹介が行われました。

■稲田会長挨拶



■朝倉副会長挨拶



■集合写真



◎年1回の教育長同士による『熟議』を実施！新たな気づきが得られる貴重な機会です。

本会の「総会」では、年1回、教育長同士が膝を突き合わせて「熟議」をする機会を大切にしており、毎年参加者は、新たな気づきが得られたり、自治体間のネットワークの構築につながったりしています。

今回は、「法改正で変わる学校運営と働き方改革－コミュニティ・スクールの新たな役割」をテーマに4つのグループに分かれ、「学校と教師が担う業務に係る3分類」を踏まえ、各自治体の取組等の情報交換や、地域・学校の相互理解の促進や適切な役割分担の在り方について熟議しました。

各グループでは、地域と学校をつなぐ「地域コーディネーター」の導入によって、地域連携と教員の負担軽減に成果があがった事例や校内に地域の方が使用できる「CSルーム」を設置することで、地域の方が自然に学校に集う仕掛けを作った事例、さらには部活動の地域展開に向けて、企業・地域と学校が双赢WINとなる体制の仕組みづくりなど、多角的な視点から意見交換がなされました。オンライン参加者同士でも、コミュニティ・スクールのさらなる発展に向けた貴重な意見が交わされました。

◎高い満足度の「熟議」。次年度も実施します。皆様も是非ご参加ください！

総会後に実施したアンケートでは、参加者の9割から、「とても参考になった」という高い評価が寄せられており、特に、他市町村の取組を直接聞くことができる点や、取組の成果や課題を共有できること有意義であるとの声がありました。また、様々な規模の市区町村が情報交換を行うことで、新たな気づきにつながったとのご意見もあり、熟議を行う意義を参加者一同で再認識する機会になったと思います。

「講評」では、貝ノ瀬顧問より、これまでの「地域を拠点とした学校づくり」から「学校を核とした地域づくり」への転換の重要性、さらには产学研連携による地方創生や個人と社会のウェルビーイングに向けたコミュニティ・スクールの役割・可能性など、今後の展望を交えてお話をいただきました。

■貝ノ瀬顧問の講評



■熟議後の意見交換の様子



■熟議の様子



総会表決の結果について（報告）

「総会」の協議事項、議案1件につきましては、規約の定めに従い、過半数の賛成をもって承認されました。今後ともご協力よろしくお願ひいたします。

議案第1号 支部長の選任について 賛成 86 反対 0件

速報

全国コミュニティ・スクール研究大会 in 仙台

— 地域とともにある学校づくり推進フォーラム 2025 —

◎ 大会の詳細は、**来年2月発行予定『特別号』**で報告します。



◎ 今回号では、会場の“熱気”を速報でお届けします！ [大会資料やアーカイブ動画はこちらから →](#)

午前の部 ~開会行事／パネルディスカッション

【開会挨拶】

主催者代表挨拶 松本 洋平 文部科学大臣 (代読 塩見 みづ枝 総合教育政策局長)

歓迎の言葉 郡 和子 仙台市長 (代読 藤本 章 副市長)

来賓挨拶 伊藤 達也 衆議院議員

【来賓紹介】

伊藤 達也 衆議院議員、藤本 章 仙台市副市長、美田 耕一郎 公益社団法人全国子ども会連合会会長、赤池 誠章 前参議院議員、鈴木 寛 本協議会顧問、貝ノ瀬 滋 本協議会顧問が御登壇されました。

【完成したコミュニティ・スクールのロゴマークとキャッチコピーの紹介】

ロゴマーク：廣瀬 紗己さん（山口県下関市立文洋中学校3年）

キャッチコピー：提島 尚子さん（鳥取県立鳥取西高等学校3年）



学びの輪、
地域の和。
未来へ繋ぐ

【CS推進名誉マイスター任命式】

新たに小西 哲也様、竹原 和泉様、森 保之様が新たに任命されました。



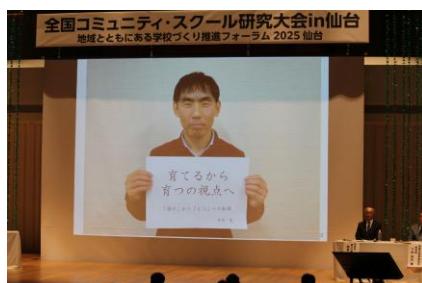
【行政説明】

- ・「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進」 文部科学省 地域学習推進課
- ・「地域運営組織（RMO）とCS・地域学校協働活動との連携」 総務省 地域振興室

【パネルディスカッション】

【復興の足跡から未来へ～コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の可能性～】をテーマに、仙台市縄文の森広場 阿部 淳一所長、安平町教育委員会 井内 聖教育長、飛驒市教育委員会 下出 尚弘教育長にディスカッションをしていただきました。

子どもと大人が結果を求めずに話す場を作ることで双方の距離を縮める取組や、防災などの課題探究活動を通して地域の子どもたちが活躍する仕組みづくり、「学校の中にまちをつくる」というコンセプトの下、地域と学校を分けない多様な交じり合いが起きる学校づくりなど、地域の人との出会いの場を設けるための活動について、具体的な活動事例の紹介とともにその成果や課題が共有されました。



午後の部～分科会～閉会行事

大会の午後からは、5つの分科会を開催。各会場は満員。熱議を通して熱気につつまれていました。

第1分科会「防災教育・地域防災の視点」／第2分科会「キャリア教育の視点」

第3分科会「学校・地域の役割分担の視点」／第4分科会「学校・地域の問題解決の視点」

第5分科会「こどもの視点」



閉会行事

天野 元 仙台市教育長から閉会にあたっての開催地としてのお礼の言葉をいただきました。そして、次年度の開催地である稻田 新吾 京都市教育長がバトンを受け取り、本協議会会長としてのお礼と次期開催に向けた決意が述べられました。

閉会後、サブプログラムとして「地域防災・減災×コミュニティ・スクール」やCSマイスター相談会を開催し、全日程を終えました。



文部科学省委託事業 「教育長による教育長のためのコミュニティ・スクール相談窓口」

当会では、コミュニティ・スクール未導入自治体や今後導入を進めていく自治体、導入済みでも課題を感じている自治体を対象に、相談事業を実施しております。

【本年度実施期間】令和8年3月31日まで（相談受付は令和8年2月20日まで）

- ◎**コミュニティ・スクール100%導入済の自治体も、お申込み可能です。**
- ◎**ご相談を希望される自治体や、近隣自治体からコミュニティ・スクールに関するご相談を受ける自治体の教育長様は、ぜひ活用をご検討ください。**

コミュニティ・スクールを導入したものの、さらなる推進に課題を感じているみなさま、教育長同士でご相談してみませんか。コミュニティ・スクールに深い知見を有する教育長が直接現地に伺います。（オンラインも可）

また、未導入自治体の不安やニーズを個別詳細にとらえた助言ができるため、未導入自治体の実情に応じた質を伴ったコミュニティ・スクールの導入が期待できます。
実施後アンケートでは「今後の参考になった」との回答を100%いただいております。

まずは事務局へお気軽にお問い合わせください。



■令和6年 奈良県三宅町での様子（派遣者：稻田新吾京都市教育長）



■令和5年度青森県横浜町での様子（派遣者：貝ノ瀬滋元東京都三鷹市教育長）



新しい賛助会員をご紹介します

TBS TBSエデュテイメント事業センターは、教育（Education）とエンターテイメント（Entertainment）の融合を目指す新規事業部門です。放送局ならではのコンテンツ力を活かし、子どもたちの創造力や主体性を育み、未来を生き抜くための"探究心"と"学びの楽しさ"の提供を目指しています。

賛助会員一覧

一般財団法人 教育調査研究所

公益社団法人 全国子ども会連合会

株式会社 エイデル研究所

株式会社 悠光堂

公益財団法人 日本漢字能力検定協会

公益財団法人 日本数学検定協会

一般社団法人 和食文化国民会議

全国人権擁護委員連合会

株式会社 TBSホールディングス

エデュテインメント事業センター

全国コミュニティ・スクール連絡協議会 会員募集中！

入会を希望される方は、全国コミュニティ・スクール連絡協議会ホームページの「入会方法」をご覧いただき、所定の「会員申込書」に必要事項を記入し、事務局までメールにてご提出ください。ご不明点は事務局にお問い合わせください。

全国コミュニティ・スクール連絡協議会

事務局 京都市教育委員会 生涯学習部学校地域協働推進担当

〒604-8064 京都府京都市中京区富小路通六角下る骨屋之町 549（元・生祥小学校内）

ホームページ <http://www.japan-cs.org/>